

高校生と医学生のための 地域医療体験 報告書



2017年8月24日－28日

主催 大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座
公立神崎総合病院

後援 神河町

概要

目的

すべての参加者（高校生、医学生、関わるスタッフ、地域住民）が学び、感じ、成長できるプログラムに。

高校生

- ・将来医療従事者を目指すうえでの動機づけ、学習意欲の向上
- ・地域医療の現場を体験し、現状と課題を考える
- ・ほかの地域や文化背景の人たちと交流し考え方の幅を広げる
- ・「地域」を知り医療を知るきっかけを得て成長できる 5日間に

医学生

- ・地域医療の実態を知り自らの将来を考える契機とする
- ・高校生との議論を通じて初心に立ち返ることができる
- ・高校生とともに活動することによりリーダーシップの涵養を図る

神崎総合病院の職員のみなさん、地域住民のみなさん

- ・神河町という地域そのもの、医療と地域との関係を見直すきっかけにする
- ・未来の医療従事者が神河町で仕事をするきっかけづくり
- ・地域医療の現状を内部、外部両方のまなざしをもって再認識し、病院の良さや課題の見直しを通して病院全体が活性化するきっかけに
- ・医療人は自分たちの手で育てているのだという意識の構築をめざす

日程

平成29年8月24日（木）～28日（月） 計5日間

※28日（月）は広尾学園高等学校のみ

場所

公立神崎総合病院（8月24日～27日）

大阪医科大学附属病院（8月28日）※広尾学園高等学校のみ

参加者

大阪医科大学／兵庫県立神崎高等学校／兵庫県立香寺高等学校

広尾学園高等学校（東京都）／高槻高等学校（大阪府）／公立神崎総合病院

協力者

かんざき訪問看護ステーション／ケアステーションかんざき／神河町健康福祉課

神河町社会福祉協議会／地域医療を守る会／すずらんの会（病院ボランティア）

学生民家宿泊先

主催・後援

主催：大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座・公立神崎総合病院

後援：神河町

1日目

8/24 (木)

13:00 集合

14:00 開会式

開会式

神河町町長挨拶 趣旨説明 院長挨拶
オープニングレクチャー
参加者自己紹介 プログラム紹介
白衣貸与式 チーム名決定
神河町地域診断ワークショップ
夕食 (歓迎バーベキュー)
夜更けの自由ディスカッション

山名町長
ご挨拶



宮原院長
ご挨拶



鈴木教授
趣旨説明



参加者 自己紹介



医学生スタッフ

白衣貸与式



オープニングレクチャー
チーム名決定



15:00 神河町地域診断ワークショップ



神戸学院大学現代社会学部
「神河プロジェクト」チーム
学生さんプレゼンテーション



18:30 宿泊先へ

地元の食材を使ったバーベキュー



「地域医療を守る会」の皆さんが神河町のお米で作ったおにぎりを用意してくれました！



夜更けの
自由ディスカッション



2日目

8/25 (金)

体験

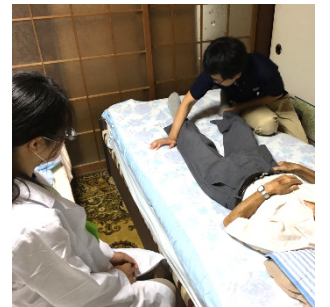
訪問看護・訪問リハビリテーション
昼食 (古民家食堂「BECAUSE」にて)
地域医療レクチャー グループディカッション
夕食 (「かみかわだいにんぐ めだかのおうち」にて)
振り返り
懇親会

9:00 体験

訪問看護・リハビリレクチャー



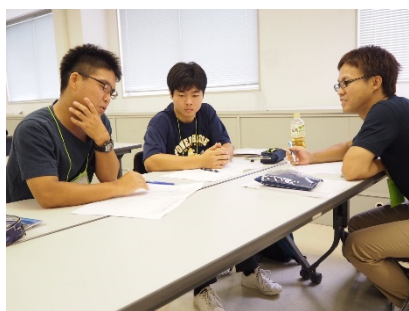
訪問看護
リハビリ実習



13:30 昼食



13:30 訪問看護・リハビリ 振り返り・発表



15:30 地域医療レクチャー、グループディスカッション



17:30 夕食



3日目

8/26 (土)

朝食 (カフェ・チョコットのモーニング)
体験

手術室見学・腹腔鏡操作体験
縫合体験・心臓超音波検査・腹部超音波検査
昼食 (病院食を体験)
振り返り
民家へ宿泊

朝食後にて

7:30 朝食



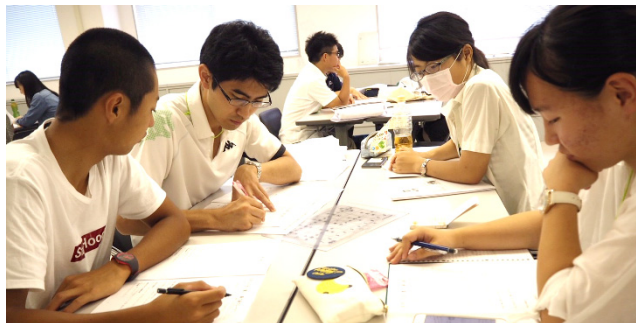
9:00 手術室体験



9:50 医療のデモ体験



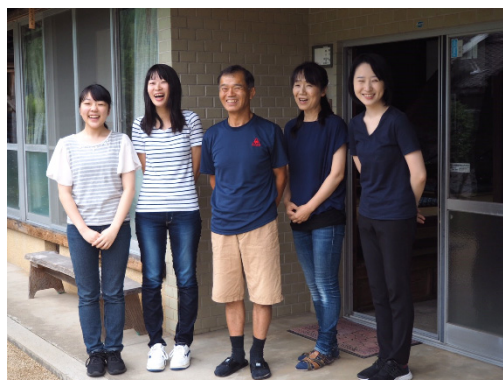
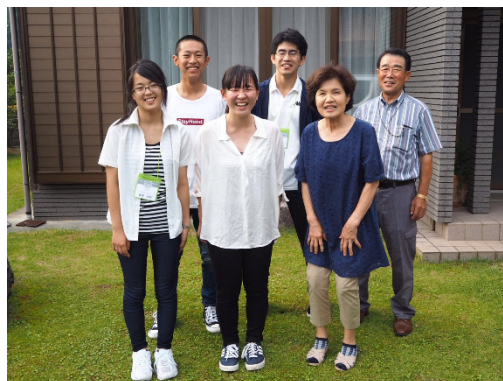
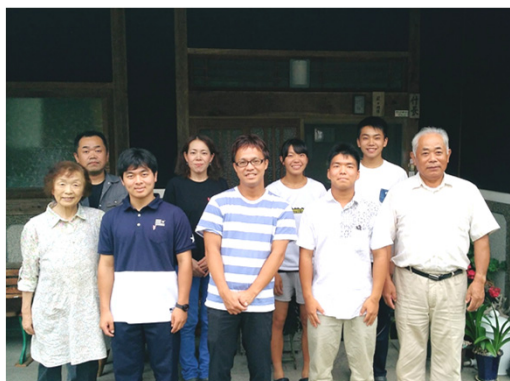
10:40 レクチャー・グループディスカッション



病院食体験（昼食）



15:30 民家さん宅に宿泊



4日目

8/27 (日)

振り返り、発表
閉会式

9:00 振り返り・まとめ、発表



12:30 閉会式



山名町長
ご挨拶



宮原院長
ご挨拶



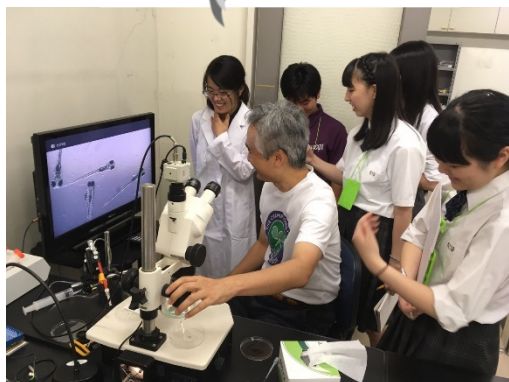
5日目
8/28 (月)

大阪医科大学 見学 (広尾学園のみ)

9:00 研究室・図書館・病棟 見学



小野先生の
生理学教室



病棟見学



教授室にて
振り返り



高校生の 感想

体験を終えて・・・ 参加してどんなことが学べたと思いますか。

医者になるには曖昧な気持ちではだめだということを改めて気づかされました。医学部に入るのはもちろん、医者になってからも勉強し続けなきゃいけないことがたくさんあって常に学び続けなきゃいけないことを知りました。また、様々な科の先生方の話を聞く機会がありましたが、共通して感じたのは、医者は辛いことが沢山ある中で日々大きなやりがいを感じるからやめられないということです。特に神崎総合病院の様な地方の病院では一つの科を数人で回したり、総合的な診療が必要とされて特に大変なことが多い中続けてきた先生方の話はとても心に響きました。他に医者の方々や、医学生の方々は話すのが好きで教えるのもうまい人が多いなと感じました。医者は自分から患者さんの話を聞き出したり、自分の意見をはっきりさせることが求められるということを学びました。また、自分から質問を投げかけることで、相手が話すつもりがなかったこと、自分が聞きたいことを沢山聞き出すことができることを学びました。質問することで、そこから発展した話を聞けることもあり、疑問に思ったことを深く考えすぎずに聞いてみることも大切だということも学びました。

普段の生活では体験できないような地域の人々の温かさや、地方の医療の現状を実際に行き見学させてもらい話を聞いたことでよりリアルに感じる事ができた。医師の仕事の大変さはもちろんのこと患者さんと医師のつながりの強さを感じることができて、医師の本来あるべき姿、一番大切なことは、患者さんに寄り添うことなんだと感じ、理想の医師像が見つかった。

地域医療の現状について、田舎での医療は想像通り医師が少なく、過酷な現場であることは事実だが、その中で働いている医師の方たちは地域の医療に対して真摯に取り組んでおり、自分たちの仕事に自信と誇りを持っていると感じた。
訪問看護師・リハビリ看護師の重要さを知った。都市部の病院では病院で亡くなる患者が多いが農村部では医師や病院が少ない為在宅医療が多いと感じる。住み慣れた家で過ごしたいと思う人は多く、訪問看護師はその人たちの生活の質を高めるための最も大切な存在であると思う。
人は見かけによらない。

自分の中で漠然とあった「医者になりたい!」という思いがより一層強くなった体験でした。また、医療に関することだけでなく、人間の温かさや人間関係について学べました。

神河町の今の医療の現状が学べました。例えば、少ない医師で外来や当直をしていることや医師の方々たちで若い人が少ないなどです。しかし、都市などと比べると患者さんたちや地域の方々はとてもやさしくあたたかい町でした。

今回参加させてもらい、ディスカッションなどで自分と違う考えや大阪の病院と神崎病院と2つの病院を見ることで、それぞれ違うところが良く分かり、地域病院の課題などが学べたと思います。

都市とは違う地域医療がどのような現状になっているのかが少しわかった。全然知らない人とコミュニケーションをとるのは最初の一言目は緊張したけれど、どんどん仲良くなれていくことが分かった。命の価値観について学べた。

人前で喋ることの大切さです。私は人前に立って喋ることがとても苦手で、すぐに緊張して言葉が浮かばなくなります。だけど何度も人前に立って喋ることで緊張がほぐれて質問したい、話したいという初めての感覚になりました。質問することで自分の中にあったモヤモヤが消えてもっと知りたいと思いました。それとチャレンジする勇気も大切だと思います。やっぱり毎日医療の事を聞くのは大変だったけどやってみようと思うと途中から楽しくなります。

神河町の今の医療の現状が学べました。例えば、少ない医師で外来や当直をしていることや医師の方々たちで若い人が少ないなどです。しかし、都市などと比べると患者さんたちや地域の方々はとてもやさしくあたたかい町でした。



高校生の 感想

この実習に参加して自分が変わったと思うところはありますか。それはどんな点ですか。

学び続けなきゃいけないことや、同じような夢を持つ高校生の話を聞くことで自分の勉強に対する意識が変わりました。このままの勉強じゃ足りなくて学校内だけではなくライバルは学校外にも沢山いることを実感し、焦りも感じました。こうして自分が何が目的で勉強しているのか再確認することができました。また、医者になりたい気持ちもより一層高まりました。こんなにやりがいのある仕事に就けたら毎日充実して大変なことはあっても自分らしく生きていけるだろうと強く感じることができました。そして、質問の大切さに気付くことではじめは義務感でしたがだんだんと自分から質問していこうと思うようになりました。私は自分から話を振るのが苦手です。人と話すのは好きでも得意ではないので半分開き直っていました。しかし今回の実習で自分から積極的にうまく話せる人はどんどんいろんなことを吸収していて自分もそうできるようになりたいと思い自分的にはずっと多くの人といろんな話をできました。

医師になるという夢は小さいころから持っていたのですが、今回実際に体験したりお話を聞いたことにより医師の仕事の必要性に気付かされることが多く、より強く医師になりたいと思いました。普段の生活だと医学部に行くための勉強のことで頭がいっぱいになってしまうことが多いのですが、大切なのは勉強ができることではなく患者さんを思いやる気持ちなのかなと思いました。

看護師になりたいと思っていただけでしたが、看護師になった後どこでどんな感じで働くのかをイメージするようになりました。いままではあまり人前でしゃべることがなく苦手でしたがディスカッションや発表をするうちに自分から積極的にできるようになりました。

今まで漠然と頭に描いていた医者になるという夢がより現実的になった点。また、短時間で的確に自分の意見を発表できるようになった点。

人とのコミュニケーションを重視し、積極的に対話を行うようになったところ。人の意見を尊重するようになったところ。

発表する機会が多く人前で話すということが少し慣れて出来るようになったと思います。また、東京の子と話したり、医大生の方と話す中で将来医学の方へ進みたいという思いがより強くなりました。

医療の事について深く知ろうと思えた。自分から意見や行動をすることができた。自分から誰かに話しかけることができるようになった。地域医療に興味を持てた。

自分はこんなに集中力があるんだと思いました。ずっと医療のことを聞くことは慣れていないので最初は疲れたと思っていましたが、「将来の為に頑張ろう」と思うようになってから時間が経つのが早かったです。集中しながら先生の話のきいていて私が分かるくらい真剣になっていました。やっぱり周りの人が真剣だと「自分もならない」と思ったのかもしれない。

医学生の 感想

ご自身にとってこの実習を通して
どのような学びがありましたか。

以前から在宅医療に関心があったので今回の実習で訪問看護・リハを見学できたことがとても良かったです。医師の訪問診療もおそらくあのような感じで患者さんとの距離が近く、患者背景をしっかり把握して長期的に患者さんを診ていくのだろうと思い、自分もそのような医療を提供したいと思いました。

参加当初は地域の医療体制に対する理解はほとんどイメージでしかなく、神崎についてもなにも知りませんでした。しかし、今回実習に参加させて頂いて地域の方たちにとっての神崎総合病院の存在の大きさと心の距離の近さや何十年にもわたって神崎に暮らしてきた方たちの温かさ、地域特有のきれいな水と空気がはぐくんできた食材の数々など、神崎の魅力を地肌で感じることで大変貴重な体験をすることができたと思います。

職種や年代、立場を超えて、地域医療をテーマに話すことで、自分には思いもつかなかった様々な印象・意見・考えを知ることができた。2度目の参加であったが、神河町という地域の健康問題・医療の良いところと課題について、いっそう深く知り、考えることができた。

将来的に地域医療に従事したいと考えているが、将来的なキャリアプランを考えることが具体的には難しかった。なぜなら周りには先生方が大学勤務の先生が主だから。しかし、この実習で出会った先生方はまさに自分が将来目指す道を歩んでいた。専門家としてのスキル、家庭医としてのスキル、どちらもどのように身につけてきたのか知れたことは大きな収穫だった。

田舎の地域医療がいかに大変か（産婦人科の先生が何十年も旅行にすら行けなかったり）を学べた。

今回の実習を通じて、地域医療の現状や大切さを学びました。地域医療の現場では、都会と比べ人手も機材も足りない中で少しでもより良い医療を提供しようとスタッフの皆さんが協力して地域の方々のために働いていらっしゃることを知りました。また、今回の実習では地域の方々に関わらせていただく機会が多く、神河町の方々の温かさを感じることができたとともに地域の方々の医療に対する思いも伺うことができました。

神河町における地域医療の実際を学ぶことができました（先生のレクチャーなどにより）。高校生とこの実習を終えた後に話をすると、医学（看護）にさらに興味を持ってくれた人が多く、次の世代を教育すること、医学教育にも興味がわきました。また、住民の方々とお話をさせていただくことで、地域でやる医療に対する期待も感じることもできました。

参加した高校生・医学生へのメッセージ

かんざき訪問看護ステーション 吉井恵津子先生

研修お疲れ様でした。それぞれの学生生活に戻られ短い日数でしたが神河町で経験されたことがいい思い出となっていると思います。最終日の各グループ発表での明るい笑顔が印象的でとても感動的でした。見学で同行訪問させていただいた利用者さんや家族さんも後日訪問すると「もっと話をしたかった」「また来年も来てほしい」との言葉をいただき、見学をお願いした私達もうれしかったです。今回の研修で学んだ事や体験された事が、これからの将来を考える上に少しでも参考になれば良いと思います。がんばって明るい未来へ前進してください。ありがとうございました。

公立神崎総合病院 小児科 矢橋良嗣先生

研修ご苦労様でした。今回の研修で地域医療の一端を垣間見て感じたことを忘れないでください。都会の最先端の医療だけでなく地域に根ざした当院のような地域医療も日本の医療には大事なことだと僕は思っています。医師を含めた医療従事者として研鑽を積んで地域医療に関わってくれる人が出てくることを期待しています。

公立神崎総合病院 麻酔科 田路大悟先生

今年で三回目となり毎年来られる高校生医学生たちのやる気や医療に対する興味がUPしてきている気がします。また、来年以降も若い人たちが希望をもって当院に来て頂けることを楽しみにしています。

公立神崎総合病院 臨床検査科 牛尾道弘先生

いつの時も目標を見失わず初心忘れず頑張ってください。

神戸学院大学 岡崎宏樹先生よりひとこと

神戸学院大学現代社会学部現代社会学科の学生は、2015年から〈神河プロジェクト〉に取り組み、神河町の魅力を伝える音楽・動画作品を作成したり、政策提案を作ったりしてきました。今回、私たちの作品を発表する機会をいただきました。たくさんの収穫がありましたが、一番の発見は、自分たちの視点から地域医療という視点が抜けていると気づいたこと。観光、産業、政策も重要ですが、それらの基礎となるのは健康な暮らしです。それを支える皆さんと出会い、歌を通じて交流できたことは大きな喜びです。誠にありがとうございました。

『地域医療体験』のその先に



公立神崎総合病院
院長 宮原 誠二

3回目を迎えた「高校生と医学生のための地域医療体験」に、初めて病院責任者として関わらせていただきました。医学生はともかく未成年である高校生を多数含むプログラムですから、とにかく無事で、そして笑顔で帰っていただくことが、今後この企画を発展的に継続させていくためにも非常に大切でした。

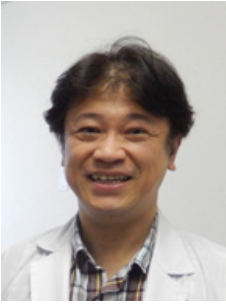
親御さんや地域の方々に不安や不快感を抱かせては、せっかくの試みも価値が半減します。それだけに、地元高校生のうち2人が急遽大阪での最終プログラムにも同行すると知った時、彼らの心に響く素晴らしい企画だったのだと喜んだのですが、同時に親御さんに心配をおかけしないように、当院事務スタッフにも丁寧にフォローするようお願いしました。ご家族の方々には大きな心でご理解いただけたご様子と聞き、安心しております。

今後さらにいい形にプログラムを整備し、地域医療に力を注ごうという人材の発掘へと繋げる為には、民泊やバーベキューにご協力くださった皆さまの心温まるおもてなしに頼るだけではいけません。

訪問看護への同行は、山間部での在宅医療という、今の若者にとってはタイムスリップのような得難い経験であったようですが、病院で患者さんを迎える我々としても、参加してくれる学生・生徒たちに、神崎総合病院ならではのインパクトある“たからもの”を持って帰ってもらえるよう、知恵を絞らねばと思っています。

最後になりましたが鈴木先生、三澤先生、そして院内外でご協力くださった全ての方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

地域医療体験を終えて



公立神崎総合病院
総合診療部長 中山一郎

早いもので、この『高校生と医学生のための地域医療体験』も今年で3回目を迎えました。開催地スタッフの一人として、多くの方々のご支援ご協力の下、今年も当地での開催を無事に終えることができ感謝の念に堪えません。

今回は従来とは形式が変わり、参加者には神河町の事前学習を課題とし、初日に地域診断ワークショップが大阪医科大学総合診療科の鈴木教授と三澤先生を中心に開催され、「神河プロジェクト」チームの神戸学院大学の先生方や、ミュージシャンの山田明義さん達にもご参加いただくといった取り組みとなりました。

また、医療の実体験の部分に関しては、過去の体験学習に無かった事前の目標設定や振り返りの時間が取り入れられました。その結果、医学部の学生さんの統率の下、ペアとなった高校生達はチームワーク良くしっかりと地域医療を学んでいました。我々の眼にも若い彼らの成長が逞しく認められ、特に最終日の発表の際の輝いた瞳は印象的でした。以上の様な新たな取り組みで、今回の地域医療体験は非常に充実したものであったと実感しています。

一方、この地域医療体験を実りあるものにするため尽力頂きました地域住民の皆様には心より感謝しつつ、参加高校の先生方とも実際に交流ができ私自身大変に貴重な機会が得られた事にも感謝しています。

私自身は今回の地域医療体験での多くのふれあいを糧に、今後も引き続きハートのふれあう地域医療を実践してゆきたいと思います。

地域医療体験を終えて



広尾学園 中学校・高等学校
医進・サイエンスコースマネージャー
木村 健太

広尾学園 医進・サイエンスコースでは、生徒が目指す医療や研究分野において”本物”に触れられる機会を大切にしています。「高校生と医学生のための地域医療体験」はまさにリアルな”本物”を体感できる機会であり、医師を目指す生徒にとって非常に有意義なプログラムです。鈴木先生や三澤先生をはじめ、医学生や神崎総合病院の先生方、神河町の皆様が非常に充実したプログラムを組み立ててくださっており、例年、生徒たちはかけがえのない5日間を過ごさせていただいています。

今回も、お話を聞かせてくださった皆様全員が、医療に携わることがいかに素晴らしいことで、どれだけ「やりがい」を感じておられるかを生徒に伝えてくださいました。ともすれば医学部に合格することばかりに気を取られがちな生徒にとって、医師を志すという思いに回帰するきっかけになったようです。

神河町ならではの、人と人との繋がりは、都市部の学校に通う生徒にとっては新鮮で貴重な経験になっています。特に今年度は、三澤先生がデザインしてくださったWSのおかげで、早い段階で神河について知ることができ、その後のプログラムにおける充実度も大きく向上しました。さらに今年度からは地元の高校生だけでなく、高槻高等学校の生徒さんや先生方も参加してくださいました。生徒たちにとっては今まで以上に交流の幅が広くなり、大いに刺激を受けたようです。

生徒が培った思いは、東京に戻ってからも継続しており、残念ながら今回は参加できなかった生徒たちにも共有しております。本プログラムにご尽力いただいた皆様、本当にありがとうございました。

体験を終えて



高槻高等学校
田中 大祐

本校は今年度初めてこの実習に参加させていただきました。まず、お声掛けいただきました鈴木教授をはじめ大阪医科大学の方々、神崎総合病院や神河町の関係者、民泊をはじめ各所でお世話になった地域の方々に御礼申し上げます。また、広尾学園をはじめ神崎・香寺の高校におかれましても、本校を温かく受け入れてくださりまして誠にありがとうございます。

この実習では、神崎総合病院を中心に様々な立場の方々と意見を交わすことで、生徒にとっては自身を見つめ直すまたとない機会になったようです。地域における病院の実際や課題について知るとともに深く考えさせられもしました。熱意をもって一生懸命に働かれる医療関係者のお話は、生徒に非常に大きな刺激を与え、学習意欲や進路意識の更なる向上につながりました。特に、患者さんや地域の方々の立場から伺ったお話によって得た客観的に医療を見る視点は、医師を志す生徒にとって大きなアドバンテージになったはずです。

この実習は引率した私にも良い影響を与えてくれました。ご協力いただきました多くの方々の思いを忘れることなく、この実習に参加した生徒たちを今後もサポートするとともに、次の生徒たちにもこの実習で得たことをしっかり伝えていきたいと思っております。

神崎がくれたたからもの



大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座
特別任命教員助教 三澤 美和

2017年度の地域医療体験には、私自身初めてメインの運営担当として関わらせていただきました。宮原院長先生、藤原事務長さん、中山先生、総務課井上さんらと、半年以上前から様々な相談と話し合いを繰り返し、また多くの部署の方からのご意見をいただきながら「昨年よりもさらにいいものを」と準備にあたりました。

実習前の高校生と医学生たちにとって、リアルな臨床現場のやりがいや大変さ、地域と患者さんとのつながりなどは未体験ゾーンです。でも知らないからこそ、フレッシュなレンズを通してキラキラした目で体験をしてくれます。私たち運営側のミッションは、いかに学生たちのやわらかいハートに、心通う医療や患者さんにつながる喜び、プロとしてのやりがいを響かせることができるかということにあると思っています。そして最高のサポートをいただける神崎という素晴らしいロケーションで、都市部にはない医療、特に限られたリソースを工夫しながら温かい医療を提供する現場と地域をみてもらえることは、どんな優れた教科書よりも学生たちの心に、ストレートに「医療って何か。地域って何か。」ということを伝えることにつながったと思います。本地域実習の成果はすぐには見えにくいかもしれませんが、でも、確実に学生たちの心に種をまき、いつかそれぞれの医療職についたときに心の奥底でいつも響いていてくれると思っています。そのような医療者の育成に関わっていただける、この神崎という地域を私自身とても大切に思います。

これからも本実習をよりよいものに、より新しいものにしていきたいと思っています。病院のみなさん、神戸学院大学のみなさん、参加いただいた学生のみんな、サポートいただいた地域のみなさん、多くの裏方で支えてくれる関係者のみなさん。今年も本当にありがとうございました。

ご挨拶



大阪医科大学地域総合医療科学寄附講座 特別任命教員教授 鈴木 富雄

昨年、一昨年に引き続き、今年度も8月24日から27日まで4日間に渡り、公立神崎総合病院と神河町にて「高校生と医学生のための地域医療体験」が行われました。大阪医科大学の医学生4人、東京広尾学園高校の高校生2人、高槻高校2人、地元の神崎高校2人、香寺高校3人に加えて、大阪医科大学の学生スタッフも4人、総勢計17人が参加してくれました。

今回の実習でも、公立神崎総合病院の宮原先生、中山先生をはじめとする職員の方々や、地域医療を守る会を主体とした地域住民の皆様方に、大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

今回は3回目でしたが、昨年までと違いいくつかの変化がありました。一つ目は、神河町の地域の活性化を目指す「神河プロジェクト」を大学の事業として取り組んでこられた、神戸学院大学現代社会学部現代社会学科の岡崎先生方にご参加いただいたことです。大学のゼミの皆さん方が作成された、神河町の魅力がいっぱいに詰まった音楽や映像を見せていただき、美しい自然と温かい人の優しさに溢れた神河町の素晴らしさを改めて感じることができました。初日のバーベキューではゼミの活動に協力されているミュージシャンの山田さんにもご参加いただき、ギターの生演奏と歌で雰囲気を最高に盛り上げていただきました。お忙しいところ、本当にありがとうございました。

二つ目は、これまでは地元の高校生と東京広尾学園の高校生の参加でしたが、今回は大阪医大と関連の深い高槻市の高槻高校にも参加を呼びかけたことです。高槻高校は参加高校の中で唯一の男子校で、参加の男子生徒も最初は元気の良い女子高生たちにやや押され気味ではありましたが、そこは高校生同士、すぐに打ち解け合い笑顔で楽しく素敵な学びの時間を共有することができました。

三つ目は、一日ごとの各グループでの振り返りの結果を、毎日スライドで発表していたところを、スライドでの発表を最終日だけにしたことでした。これによって、毎日の実践的な体験と振り返りの時間に余裕が生まれ、よりじっくりと時間をかけて学びを深めることができましたと思います。

4日間の短い期間ではありましたが、医大生や高校生たちの成長ぶりは今回も驚くべきものがありました。これも、他では体験できない貴重な学びの場を提供していただいた公立神崎総合病院や神河町の皆様方のご尽力の賜物だと思っております。特に、お忙しい中、お泊り実習でお世話になった四世帯の民家の皆様方には、心より感謝しております。本当にありがとうございました。

大阪医科大学と公立神崎総合病院および神河町との絆が一層深いものとなり、この企画を通じて、学生たちの学びのみならず、地域の活性化という観点から、少しでもお役に立つことができたら幸いに存じます。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

